

ワーキング・グループの成果イメージ

2015 年 12 月 21 日

伊藤 健

日本の現状では、社会的インパクト評価自体が認知されておらず、今回のWGの成果として、まずはその必要性・重要性、前向きな意義・効果、基本概念・基本原則等を明確にし、社会的インパクト評価実践の機運を高めることを最重要の狙いとし、次のステップにつなげていくべきではないか。

そのため、以下の観点から、WGの成果を取りまとめることとしてはどうか。

1. 社会的インパクト評価が求められる背景 [第1回WG]

- ・社会的インパクト評価が求められる時代背景について、成果重視の流れや資本市場における非財務情報重視の流れも踏まえて整理してはどうか。

2. 社会的インパクト評価の効果・意義 [第1回WG]

- ・社会的インパクト評価の実践がもたらす前向きな意義を事業実施者、資金仲介者、資金提供者の観点から整理してはどうか。

3. 社会的インパクト評価の原則と全体像の共有 [第2回・第3回WG]

- ・様々な機関・団体から社会的インパクト評価のガイドラインやフレームが提示・実践されているが、これらに共通する構成要素やプロセス、基本原則を抽出し、整理してはどうか。
- ・社会的インパクト評価を構成する各要素・プロセスの概念や意義、基本原則等を整理してはどうか。

4. 日本において社会的インパクト評価の普及を図るための課題と対応策 [第4回WG]

- ・意識、技術、人材、仕組み等の観点から、普及を図るための課題と対応策について整理してはどうか。

以上